

栃木県内企業の 平均借入金利 1.20% 2年連続で上昇

コロナ前の2019年度に匹敵する金利
都道府県別では28位で全国平均と同値

栃木県・平均借入金利動向調査(2024年度)



本件照会先

古川 哲也(調査担当)
帝国データバンク
宇都宮支店
TEL: 028-636-0222(代表)
info.utsunomiya@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/02/20

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

2024年度の栃木県内企業における平均借入金利は1.20%となり、2022年度を底に2年連続で上昇した。上昇幅は0.16ポイントで、調査を開始した2006年度以降では最大となった。『金利のある世界』が本格化していることが、データ上でも明らかとなった。県別順位は28位と概ね平均的で全国平均と同値であった。市郡別、業種別でも、相応の開きがあり、返済期間の長短や借入用途によっても大きな差があるものとみられる。日銀の金融政策においても利上げ容認の姿勢も見られ、今後の動向も注目されるどころだ。いずれにしても、金利負担を強いられる中小企業の経営環境に、相応の影響があることは否めない。

帝国データバンクは企業単独財務ファイル「COSMOS1」(103万社・850万期)を用いて、非営利・特殊法人などを除く国内企業の2006年度～2024年度の平均借入金利を算出し、集計・分析した。

平均借入金利は、有利子負債(銀行等、保険、ノンバンク、個人借入などを含む借入金、社債、CP等を含む総額)に対する支払利息の割合。

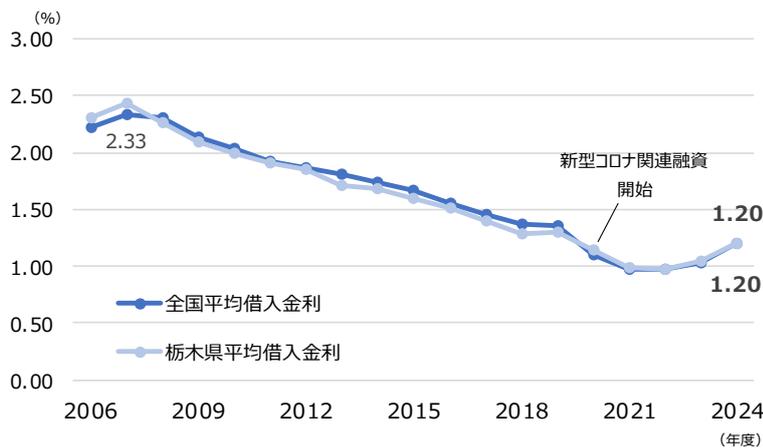
本レポートでは、平均値にトリム平均を用いている。全体の最大値および最小値から合計10%分のデータを除き、平均を算出した。

県内企業における平均借入金利は 1.20%、2 年連続で上昇

2024 年度(2024 年 4 月期～2025 年 3 月期)の栃木県内企業の平均借入金利は 1.20%となった。前年度から 0.16 ポイント上昇し、2022 年の 0.98%を底に、2 年連続で上昇した。2006 年度の調査開始以降、上昇幅は最大となった。

県内企業の平均借入金利は、2007 年度(2.44%)をピークに 2021 年度まで 14 年連続で低下し、2020 年度～2022 年度には新型コロナに伴う実質無利子・無担保の融資(コロナ融資)拡大で大きな下げ幅となった。2023 年度以降はコロナ融資の借り換えや一般融資における金利上昇などによる影響が表れ、2024 年度は長期金利が 1%を大きく上回ったことも上昇圧力となった。『金利のある世界』がデータとしても顕在化し始めたと考えられる。

平均借入金利の推移



年度別平均借入金利の推移

年度	栃木県	全国
	平均借入金利 (%)	平均借入金利 (%)
2006	2.31	2.22
2007	2.44	2.33
2008	2.27	2.30
2009	2.09	2.14
2010	1.99	2.03
2011	1.91	1.92
2012	1.86	1.87
2013	1.71	1.80
2014	1.68	1.73
2015	1.60	1.67
2016	1.52	1.56
2017	1.39	1.45
2018	1.29	1.37
2019	1.30	1.36
2020	1.14	1.10
2021	0.99	0.97
2022	0.98	0.98
2023	1.04	1.04
2024	1.20	1.20

全国状況を俯瞰する意味でみると、最も平均借入金利が低かったのは「奈良県」の 0.86%。以下、「香川県」(0.93%)、「鳥取県」(0.94%)と続く。前年度(2023 年度)と比較すると、「徳島県」を除く 46 都道府県で平均借入金利は上昇した。

都道府県間の金利差の要因の一つとみられるのが、コロナ融資の利子補給制度の違いと言われる。民間金融機関によるコロナ融資は、融資実行段階から無利子となる「リアルタイム方式」と、事業者がいったん利子額を支払った後に自治体から利子額が支給される「キャッシュバック方式(営業外収益で計上)」があり、「奈良県」「香川県」はいずれもリアルタイム方式だ。コロナ融資の利子補給制度の違いはあるが、2006 年度の調査以降、常に上位に入る「奈良県」は業歴が長く財務の安定した企業が多いことが要因。「香川県」は大都市圏に近いことに加えて四国内の金融機関と顧客を奪い合う構図が根強く、他の地域よりも低金利競争は激しくなる傾向にある。

栃木県は全国順位で 28 位と概ね平均的な位置である。ちなみに隣接県の「群馬県」は 1.18%で 21 位、「茨城県」は 1.29%で 39 位であった。なお毎回説明していることだが、あくまで決算書上の支払い利息額から金利を算出したものであるから、融資内容や返済期間で条件は異なるため、一概に栃木県より茨城県の方が金利は高い…ということにはならないことは申し添えておく。

都道府県別の平均借入金利(2024 年度、低金利順)

都道府県	平均借入金利 (%)	前年度比	都道府県	平均借入金利 (%)	前年度比	都道府県	平均借入金利 (%)	前年度比
奈良県	0.86	0.15	長崎県	1.14	0.06	岩手県	1.24	0.27
香川県	0.93	0.19	山形県	1.16	0.12	秋田県	1.25	0.05
鳥取県	0.94	0.10	石川県	1.17	0.19	東京都	1.26	0.27
愛媛県	1.00	0.12	福岡県	1.17	0.07	新潟県	1.26	0.06
和歌山県	1.03	0.20	広島県	1.18	0.05	宮崎県	1.28	0.07
愛知県	1.04	0.04	群馬県	1.18	0.06	福島県	1.28	0.03
岡山県	1.04	0.21	三重県	1.18	0.28	宮城県	1.29	0.09
京都府	1.06	0.18	島根県	1.18	0.31	茨城県	1.29	0.004
兵庫県	1.07	0.17	福井県	1.19	0.18	熊本県	1.31	0.10
富山県	1.07	0.26	滋賀県	1.19	0.05	北海道	1.32	0.28
徳島県	1.07	▲ 0.05	沖縄県	1.19	0.20	静岡県	1.33	0.23
岐阜県	1.09	0.03	栃木県	1.20	0.16	神奈川県	1.36	0.08
大阪府	1.10	0.22	青森県	1.22	0.18	大分県	1.40	0.09
長野県	1.11	0.04	千葉県	1.22	0.04	山梨県	1.42	0.14
埼玉県	1.12	0.24	高知県	1.23	0.07	鹿児島県	1.53	0.18
山口県	1.14	0.23	佐賀県	1.24	0.05	全国	1.20	0.16

市郡別では「さくら市」「小山市」、 業種別では「農・林・水産」が最も低金利

2024 年度の栃木県内企業の平均借入金利を市郡別でみると、最も平均金利が低かったのは、「さくら市」と「小山市」の各 1.00%だった。以下、「佐野市」が 1.12%、「栃木市」が 1.14%、「宇都宮市」が 1.17%、「矢板市」と「真岡市」が各 1.18%、「下都賀郡」が 1.19%と続き、8 市郡が平均の 1.20%を下回っていた。一方で、「下野市」では 5.21%と最も高く、「那須烏山市」1.46%、「芳賀郡」1.45%、「塩谷郡」1.43%、「日光市」1.40%などでは高いという結果であった。

一方業種別だが、金利が最も低かった業種は「農・林・水産」で 0.77%であった。以下、「金融」が 0.91%、「小売」が 0.97%、「不動産」は 0.98%と 4 業種で 1%を下回った。一方、「運輸」では 1.30%、「建設」が 1.28%、「サービス」が 1.25%などでは比較的金利が高い水準であった。最も高い「運輸」と最も低い「農・林・水産」との格差は 0.53 ポイントとなった。

前項でも少し説明したが、この平均借入金利は、あくまで決算時点での有利子負債額に対して、1 年間に支払った支払金利額をもとに算出しているため、様々なレアケースが想定される。例えば、決算期直前に多額の借入金を借り入れた場合、金利は支払っていないのに多額の有利子負債が計上されることになる。逆

に期末までに返済が完了して有利子負債がなくなっているのに、その年に支払った支払金利は計上されるため、金利を算出すれば無限大になってしまう。このような数値を含んだ平均値であるため、決して「下野市」で借りるより、「小山市」で借りたほうが有利…とはならないことが理解できると思う。

市郡別・業種別 平均借入金利

市郡別平均借入金利		業種別平均借入金利	
市郡	平均借入金利 (%)	業種	平均借入金利 (%)
さくら市	1.00	農・林・水産	0.77
小山市	1.00	製造	1.13
佐野市	1.12	建設	1.28
栃木市	1.14	卸売	1.07
宇都宮市	1.17	小売	0.97
矢板市	1.18	サービス	1.25
真岡市	1.18	金融	0.91
下都賀郡	1.19	不動産	0.98
那須塩原市	1.21	運輸	1.30
鹿沼市	1.25	その他	-
那須郡	1.26		
足利市	1.30		
河内郡	1.37		
大田原市	1.39		
日光市	1.40		
塩谷郡	1.43		
芳賀郡	1.45		
那須烏山市	1.46		
下野市	5.21		

まとめ～2025 年度の平均借入金利はさらに上昇

2024 年度の栃木県内企業の平均借入金利は 1.20%と 2 年連続の上昇となり、上昇幅も過去最大となった。低金利であるコロナ融資の借り換えや返済が進んだことや、長期金利の上昇が背景として挙げられる。いよいよ『金利のある世界』がデータとしても現実のものとなってきていることが確認できた。

2025 年 12 月 18 日、19 日に開催された、日銀の金融政策決定会合で 0.75%への利上げに踏み切り、実に 30 年ぶりの水準にまで金利を引き上げた。これに追随して各金融機関も迅速なレスポンスで金利引き上げに動いている。各企業にとっては、金利の上昇は経営環境を圧迫する事態も想定され、様々なりスクを背負うことになる。少なくともこの状況が続けば、2025 年度の平均借入金利も上昇することは確実であり、企業業績に与える影響も懸念が生じてくるだろう。来年度以降の動向にはさらなる注視が必要と考える。